

四国時報勝訴 !! 悪党に判決下る !!

オオカミおっさん川上の主張を裁判長が一蹴

〒768-0011

判決 (原文) [抜粋]

観音寺市出作町 603-3

平成24年(ワ)第82号損害賠償請求事件(以下「甲事件」)

電話 0875-25-6883

平成25年(ワ)第48号損害賠償請求事件(以下「乙事件」)

編集発行人 木下俊明

甲事件原告兼乙事件被告(以下「原告」)

木下俊明

甲事件被告兼乙事件原告(以下「被告」)

上記代表者代表取締役 株式会社四国タイムズ社 川上道大

上記訴訟代理人弁護士 生田暉雄

[主 文]

- (1)被告は、原告に対し、50万円及びこれに対する平成26年2月7日から支払済まで年5分の割合による金員を支払え。
- (2)原告のその余の請求及び被告の請求をいずれも棄却する。
- (3)訴訟費用は、甲事件及び乙事件を通じ、被告の負担とする。
- (4)この判決は、第1項に限り、仮に執行することができる。

(中 略)

第4 当裁判所の判断

1 争点(1)について

- (1) …本件各摘示事実が、原告の社会的評価を低下させることは明らかである。
- (2)被告は、本件各摘示事実がいずれも真実であるか、真実と信ずるにつき相当の理由があると主張し、被告代表者がこれに沿う供述をするが(乙1、2、6、13)、客観的な裏付けを欠くし、原告が本件各摘示事実は虚偽であると供述し(原告本人)、これに沿う証拠(甲21)を提出していることに照らしても、被告代表者の上記供述は採用できず、他に被告の上記主張を認めるに足りる証拠はない。
- (3)よって、被告による本件各記事の掲載によって、原告に対する名誉毀損が成立し、本件各摘示事実の内容その他本件に現れた一切の事情を考慮すれば、原告に対しては、50万円の慰謝料を認めるのが相当である。

2 争点(2)について

上記1のとおり、原告による甲事件の提訴は、正当なものであり、原告が、訴状や準備書面において被告が事実無根の不法報道をした旨の主張をしていることは、原告の訴訟活動と関連し…

裏面に続きます。

訴訟行為遂行のために必要・相当な範囲にとどまると言うべきであるから、違法性を有するものではなく、原告による甲事件の訴訟並びに訴状及び準備書面の記載は、被告に対する不法行為とならない。

## 第5 結論

以上のとおり、原告の請求は主文第1項の限度の理由があるから、これを認容することとし、原告のその余の請求及び被告の請求はいずれも理由がないから、これを棄却することとして、主文のとおり判決する。

高松地方裁判所観音寺支部 裁判官 八木文美

平成24年1月提訴以来、表記「判決」が、平成26年3月27日、原告「四国時報」に勝訴と、被告「四国タイムズ 川上道大」の主張には客観的な裏付けを欠くと、又、被告の悪足掻きの反訴での主張は採用できず、被告の主張を認めるに足りる証拠無しと断定された。川上にとってはまた一つ名誉毀損常習犯の犯歴が増えた。これが川上の一番恐れた刑事事件なら、先の最高裁で下された前科に加えられることになるのだが。いずにせよ、これまで四国タイムズ紙面で「四国時報」を中傷してきた記事は、全て嘘八百と裁判所が認めたのだ。四国タイムズの記事そのものが否定されたのだ。「この裁判は川上先生が絶対に勝つ」と断言した御仁や、その御仁の指示で川上の取材を受けた観音寺市内のお粗末な連中にどう敗戦の辞を述べるのか楽しみである。六代目山口組執行部から下された除籍処分と自らを裏切ったとする、倭和会元会長の飯田氏への逆恨みから始まった今回の四国時報に対する頓珍漢な不法悪質報道。余計なお世話ではあるかと思うが、六代目山口組と飯田氏の名誉のために一言付け加えておく。今回の飯田氏への処分は除籍だが、邪魔者扱いで処分されたものではないことだけは確かなようだ。四国タイムズ4月号では、懲りずに控訴を宣言しており、これもゴロ付新聞の常套手段であるので、控訴するのは織り込み済みではあるが、どう足掻いても無駄骨である。「今度は安心して出廷できる」とのことだが、ご対面が待ちどうしい。最近の記事で目新しいといえば、小泉純一郎元首相から直々にエールをもらった等と毎号に掲載しておるが、馬鹿馬鹿しくて笑いも出ない。川上みたいなモン相手にするわけないだろう(笑)猪瀬前都知事とみんなの党の渡辺代表の政治と金の問題に、浜田知事を無理矢理こじつけているが、悪意に満ちた報道である。言いたい事があるなら正面から物申せ。知事の背中に向かって叫んだと自慢しても話にならない。犬の遠吠え以下ではないか。大物政治家まで引っ張り出してまで自画自賛しながら夢物語を書き、「どうであろう!」と自己満足しているだけのオナニー新聞に過ぎない。今回の判決で四国タイムズが如何にいい加減な新聞社かということ、少なくとも四国時報の読者の皆様にご報告できたことを何より嬉しく思います。先ずは勝ちました。ご支援、ご声援ありがとうございました。次も勝ちます!!